園名　香芝市立若葉保育所

はばたくなら②

「保育わくワークシート」とビデオを使った子ども理解の進め方

～子どもが輝く運動遊び（楽しみながら多様な動きを身に付ける）～

2歳児　11月頃

取組について

〈「保育わくワークシート」を使って〉

保育所全体で研修会を開くのは難しく、2部制・3部制で行っているので、同じ視点で話し合いができにくい状況である。また、グループに分かれた会議では温度差が出るため、全体で共通理解ができるように、養護面、5領域、子どもの思いの3つに視点を当てて、「保育わくワークシート」とビデオを使ったワークショップ形式で研修会を行うことにした。

〈うんどう遊びについて〉

保育所の子どもの実態として、年々子どもたちの体力の低下が目立つようになってきている。そこで幼児では「運動遊び」「リズム遊び」に取り組み、3歳未満児では「うんどう遊び」「感触あそび」を取り入れて、体力づくり・動きづくり・気持ちづくりを行ってきた。

乳幼児期に基礎的な感覚を存分に刺激し、体を動かす心地よさ、体力、コミュニケーション力、学習意欲、がんばる気持ちなどが幼児期の終わりまでに育ってほしいと願っている。

2歳児では、転ぶ・座れない・すぐ寝転ぶなどの姿があり、バランス能力とリズム能力をつけることが必要であると捉えている。4月からうんどう遊びの年間計画を立て、「歩く・走る・跳ぶ・またぐ・登る・くぐる・投げる」など2歳児の育ってほしい運動能力を子どもたちが楽しんで取り組めるように進めてきた。

〈ねらい〉

・養護・・・健康で安全な環境の中で、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、安心感をもって過ごせるようにする

・教育・・・保育士や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ

〈環境構成〉

・体を十分に動かすことができるように、うんどう遊びのコーナーを構成し、遊びやすいように配置する。

【ワークショップ会議】

その日の活動を「わくワークシート」に書き、子どもの思いに寄り添った保育ができているのかを振り返る。子どもの遊んでいる様子をビデオに撮り、保育参観の有無にかかわらずすべての職員がビデオ視聴したのちに意見を付箋で書き、2部制で会議を行った。

養護面・5領域（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）・子どもの思いの項目に分け意見を出し合った。

〈健康〉
・次は何をするのか見通しがつくことが安心感や意欲につながっているように感じた。
・遊びの中で子どもの「これがいや！」「こうしたい!」という思いを担任がしっかりと受けとめている様子が、遊びの意欲につながっていると思った。
・喜びを共感したり、認めることで子どもの気持ちがより満たされる。担任の関わりを見ながら自分がどこまで出来ているか反省した。

〔 健康な心と体 〕

〈人間関係 〉
・見守りの中でサーキット遊びが出来ている。選択肢があり、色々なパターンの遊びがあり“やりたいあそび”を見つけて遊んでいる。片付けも子ども同士で進んで楽しんでやっている。
・トンネルくぐりで友だちが来るのを足を広げて待っていたり、一緒にくぐろうと誘っている姿があり、友だちとの関わりを楽しんでいると思った。

〔 自立心　協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活とのかかわり 〕

〈表現 〉
・子どもが楽しいと感じられる遊びの工夫がたくさんあり、うれしさや喜びを体や言葉で表現していた。
・のびのび遊んでいる姿から豊かに育っていると感じた。
・的の後ろにボールがたまる面白さもあったはず。止めずに一緒に出してその活動も楽しめたらよかったのではと思った。
・トンネルの遊びで、友だちがくぐりやすいように開けてあげている姿を見て、友だちを思いやる優しい感性が育ってきていると感じた。

〔 豊かな感性と表現 〕

〈言葉 〉
・集めたボールを「はいどーぞ」と友だちに渡すなど友だちを意識している姿があった。
・子どもたちがのびのび遊ぶ姿から、日頃のやる気にさせる言葉がけが大切だと思った。
・「向こうまで」「高く」「早く」「遠い」「近い」など楽しい体験を通して言葉とつながっていくのだと思った 。

〔 言葉による伝え合い 〕

〈環境 〉
・順番を守ったり、並んで待ったりしていた姿から、繰り返し遊びを楽しむ中で見通しを持つことができるようになってきているのだと感じた。
・ジャンプの仕方を「こうやって飛んでみようかな」と自分なりに工夫している姿があった。この姿は思考力の芽生えにつながっていくのだと感じた。
・遊具の配置を動きやすいように工夫してあったので、子どもが自分で選んで遊ぶことができ、そのことで達成感を味わっていた。環境構成の大事さを学んだ。

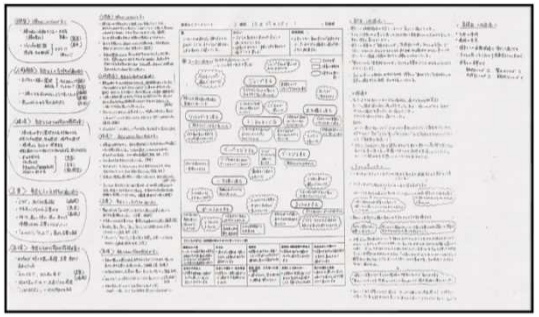
〔 思考力の芽生え　自立心
数量・図形、文字等への関心・感覚 〕

【子どもの思いから】
・興味ひかれる遊びがたくさん用意されていて、子どもたちが　好きな場所で思い思いに遊べているなと感じた。
・座っている友だちの隣に座ったり、保育士と遊んだり、手をつなぎたくて泣いたりする姿から、周りの人とたくさん関わろうとする意欲を感じた。
・トラブルになった時の関わり方や気持ちの切り替えの促し方など、子どもの気持ちに寄り添うことの難しさを改めて感じた。
・「禁止のことば」が気になった。肯定的な言葉使ったり、保育士が遊んでいる姿を見せながら遊び方を知らせると気持ちにも変化があるように思う。

【養護面・人的環境】
・どの子どもも安定した気持ちで過ごしているのがわかった。いつも自分の思いを受け止めてくれる保育士がいてくれてこそだと思った。
・子どもの行動や仕草から思いを汲み取って受容することの大切さがわかった。
・好きな先生に目線や言葉で認めてもらったことで子どもたちもとても嬉しそうにしていた。自分はどこまで出来ているのかと自分の保育に置き換えてみた。
・子どもがボールの移動や片付けの時、保育士の「ありがとう」「たすかるわ」の言葉に満足そうな表情が見られ、次のやる気に繋がっていた。
・子どもたちの遊ぶ様子を認めたり出来た喜びに共感したりする声かけを頻繁にしていたので、子どもたちが気持ちよく、楽しく、安心して遊んでいるんだと思った。
・保育士の言葉掛けで「認めることば」「共感することば」のプラスの言葉掛けでうまくいかなかったイライラやモヤモヤもおさまり、次の遊びややりたい事へ繋げていた。情緒の安定がすべての活動に繋がっているように思った。

まとめ

子どもの普段の様子からその時期に合った発達や興味を捉え、保育内容を工夫してきた。クラスの取り組みを職員全体で共有できるように、「保育わくワークシート」の活用とビデオ視聴を取り入れ、今回のようなワークショップ形式での研修を重ねることで、子どもの育ちや保育士の関わり方を話し合うことができた。さらに、出された意見を一覧表にまとめるなど「見える化」したことで、それぞれの保育士の子ども理解が深まった。



（成果）

・「保育わくワークシート」を使うことで一人一人の姿をより理解し、子どもの発達、子ども同士の関わり、保育士の援助のあり方、保育士間の連携などを共通理解することができた。

・2歳児のうんどう遊びの年間計画に沿った一つ一つの遊びを、子どもの成長に合わせながら、ねらいや環境構成・援助等を見直したことで、「自分でやりたいな」「できた」「もっとしたい」などの気持ちの育ちが見えてきた。

・3歳児以上の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し過ぎて、子どもの育ちやねらいが高くならないように、養護面を大切にした「子どもがやってみたくなる保育」を中心に取り入れていくことが大切と思われた。

（課題）

・2歳児として望ましいうんどう遊びを探り、子ども一人一人が楽しめるように、「保育わくワークシート」、ビデオ視聴などを活用し、自分の保育を振り返り、次の保育に生かしていきたい。

・幼児期の運動遊びやリズム遊びに繋げられるように、今後も全体研修の持ち方を工夫しながら、無理なく運動能力やリズム感覚が身に付くように取り組んでいきたい。